

GALE PRIMARY SOURCES

CHINA AND THE
MODERN WORLD

英植民地省ファイルCO129を電子化、手書文字認識(HTR)による手稿のフルテキストを実装し、香港110年の歴史に迫る画期的コレクション

China and the Modern World

Hong Kong, Britain, and China (1841-1951)

China and the Mod

Hong Kong, Britain, and China (1841-195

〈主題例〉

教育史、香港華人西醫書院、香港大学、中央書院

革命運動、孫文、ホー・チ・ミン、アギナルド

外交史、南京条約、天津条約、北京条約、治外法権、99年租借

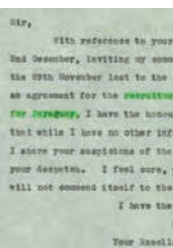
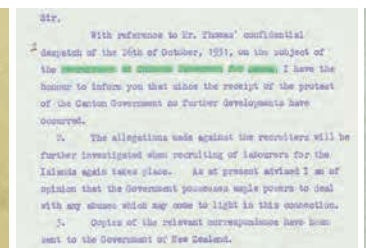
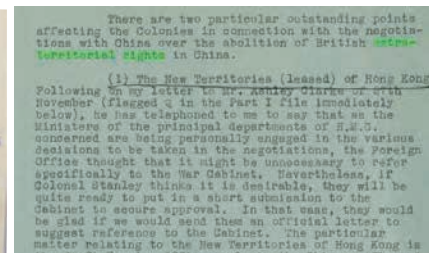
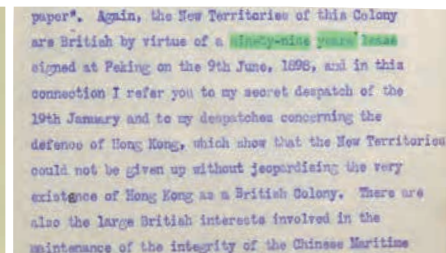
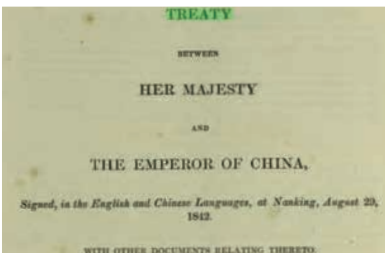
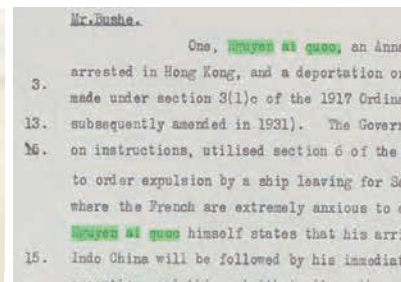
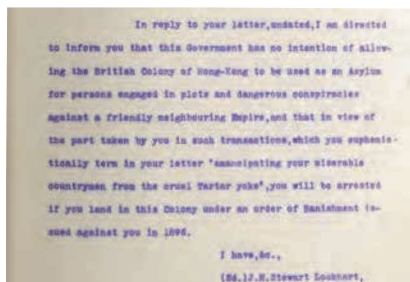
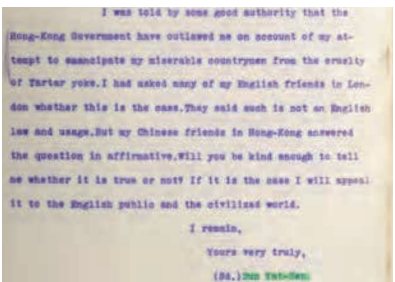
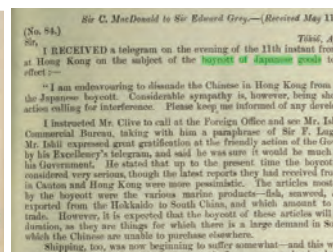
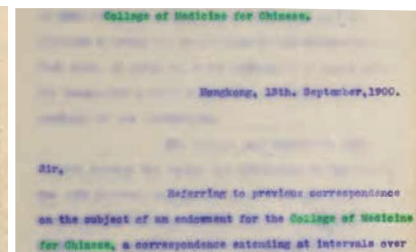
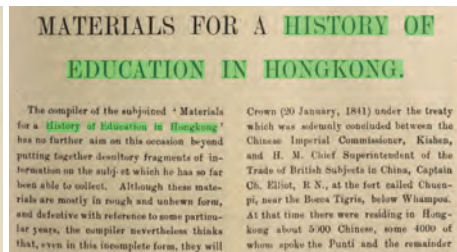
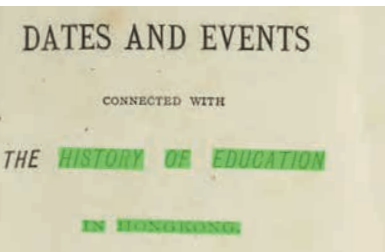
労働史、苦力、移民

対米ボイコット、対日ボイコット、路面電車ボイコット、省港大罷工、ナショナリズム

ジェンダー史、妹仔、豬花、売春、児童売買、児童保護、保良局

人口統計、犯罪統計、政府予算、貿易統計、船舶統計

医療・衛生史、ペスト、コレラ、東華醫院、西洋医学、中国医学





香港小史

アヘン戦争後の南京条約によりイギリスに割譲された当時の香港島は、人口1万人足らずの侘しい土地に過ぎず、伝染病が蔓延し海賊が横行するような島は放棄すべし、との意見が英政府内で出されたほど、将来性に乏しい土地と見られていました。しかし、上海等が条約港として開港し、貿易を独占していた広東の地位が低下したことで、香港はアヘン貿易の拠点となります。また、太平天国の乱を逃れた人々が流入し、人口が増大し始めます。さらに、欧米諸国で奴隷制や奴隷貿易が廃止される中で、奴隷に替わる新たな安価な労働力として苦力(クーリー)と呼ばれた下層労働者の供給源の役割をも担うようになります。商品と労働力供給の流れがグローバルに再編される中で、香港はアヘン貿易と苦力貿易の拠点としての地位を獲得し、ジャーディン・マセソン商会、デント商会、サヌーン商会等の外国商社が香港を拠点に活動するようになりました。また、香港上海銀行が創業し、英系オリエンタル銀行や横浜正金銀行が支店を構えるなど、東アジアの重要な金融拠点となります。外国商社と華人商人を仲介したのが買弁(コンプラドール)で、何東[Robert Ho Tung]・何甘棠[Ho Kam Tong]兄弟に代表される買弁は貿易によって富を蓄え、香港の華人コミュニティで大きな影響力を及ぼしました。また、アヘン戦争においてイギリス軍に協力した蛋家出身の盧阿桂[Loo Aquí]や郭松[Kwok Acheong]のように中国社会で差別的境遇に置かれた華人にとって、香港は社会的上昇の機会を提供しました。しかし香港ではイギリス人と華人の交流は少なく、イギリス人の社交団体への華人の入会制限、ヴィクトリア・ピークでの華人の居住制限など、法制度上でも社会生活上でも、華人への差別は根強く残りました。植民地政府が華人の厚生に関心を払わない中で、華人社会は富裕商人らが中心になり、文武廟[Man Mo Temple]、團防局[District Watch Force]、東華醫院[Tung Wah Hospital]、保良局[Po Leung Kuk]等の組織を設立し、治安、医療、紛争処理、弱者保護の領域で華人による華人のための相互扶助の仕組みを出しました。経済的に実力をつけた華人は植民地政府も無視できない存在になり、その声を政策に反映させるために統治機構への登用を始めます。植民地政府の立法局と行政局は官僚から選ばれる官守議員と一般社会から選ばれる非官守議員で構成されていましたが、伍才(伍廷芳)[Ng Choy, Wu T'ing-Fang]、周壽臣[Chow Shou-Son]、何啓[Ho Kai]、韋玉[Wei Yuk]、劉鑄伯[Lau Chu Pak]、羅旭龢(ロバート・コートウォール)[Robert Kotewall]、曹善允[Tso Seen Wan]らの華人エリートは非官守議員として立法局や行政局に参画しました。

中国本土において革命運動が展開する中で、革命の震源地広州に隣接する香港は独自の役割を担います。自らの革命思想は香港で鍛え上げられたと、晩年の孫文が回想している通り、モノや人や思想が行き交う香港は武器や資金の調達、革命家の養成に格好の拠点でした。フィリピンの革命家アギナルドも一時期亡命先として香港を選び、グエン・アイコク(ホー・チ・ミン)は香港でベトナム共産党を結党しました。上海における中国共産党創設という同時代状況の中で、1920年には香港で100以上の労組が誕生し、工具ストライキ(1920年)、海員ストライキ(1922年)、省港大罷工(1925年)など、労働運動が展開されました。革命運動は華人ナショナリズムの発揚とも結びつきました。香港における華人ナショナリズムは中国

本土と連動しつつ、しばしばボイコット(不買運動)として発現しました。米国での華人排斥に端を発する反米ボイコット(1905年)、辰丸事件を契機とする反日ボイコット(1908年)、辛亥革命後に減価した鑄貨流通禁止措置に端を発する路面電車ボイコット(1912)、北京の五・四運動と連動した反日ボイコット(1919年)、上海租界での五・三十事件に端を発する対英ボイコット(省港大罷工)(1925年)など、香港の歴史は幾多のボイコットで刻印されています。

香港の経済社会政策は同時代のイギリスや世界の政策潮流とも響きあいました。ダム、道路等の公共事業が進み、児童保護法制や労働保護法制が整備されたのは、イギリスにおける自由放任主義から福祉国家への転換が香港に波及したことに因ります。ジェンダーや性労働の領域も世界の動向から影響を受けずにはいませんでした。貧しい家庭の娘が売られて豊かな家で家事労働を行なう妹仔(ムイツァイ)や海外に渡航した苦力向けの性労働者として人身売買や誘拐によって強制的に海外に送られた猪花(チョカ)といった女性を取り巻く問題はすでに19世紀末に宣教師や旅行者から問題視されていましたが、1920年代に女性権利拡張運動が世界的に展開される中で、イギリスのメディアや議会で取り上げられ、反ムイツァイ協会が設立されるなど、香港を超えて国際的に注目を集めました。

1930年代以降の日本の中国侵略は香港の帰趨に大きな影響を及ぼしました。1937年に日中戦争が勃発すると、香港政府は直ちに中立を宣言します。中国国内の企業や銀行の本社が移転し、避難民が流入した香港は、中国向け金融サービスの提供や抗日戦のための軍需生産により経済活動が拡大しました。共産党八路軍の支部や孫文未亡人宋慶齡による抗日運動支援団体が設立されるなど、それまで警戒していた中国共産党や中国国内の革命運動との関係も改善しました。防衛努力も空しく1941年12月に日本軍の侵攻を受けた香港は以後3年8ヶ月間、日本軍に占領されます。日本軍は香港在住のイギリス人、アメリカ人を逮捕し、住所と職がない中国人に香港退去を命じたため、占領時代を通じて香港の人口は減少しました。日本の統治に協力した一部の名士を除き、大半の華人は消極的服従の態度を貫きました。イギリスは日本占領後を見据えた香港の将来を構想しました。英政府内には香港放棄の意見があったものの、香港を放棄しないの方針を固め、香港再建の青写真を描きました。日本降伏後の香港はインフレ、失業、劣悪な衛生に見舞われましたが、経済は急速に回復し、中国本土における国共内戦の混乱を逃れる人々が流入しました。日本侵攻時の総督マーク・ヤングが復帰し、立法局や行政局に占める華人の比率拡大を含む急進的改革案を提示しましたが、イギリス政府の反対を受け、穏健な改革が実行に移されました。中国本土の企業が本社を移転させたことで、香港はイギリスにとって東アジアにおける経済の拠点として重要な役割を担い続けます。

当初鄙びた漁村に過ぎなかった香港は、英領植民地100年の歴史の中で、混乱する中国本土と比較して政治的経済的安定を享受し、人とモノとカネのネットワークの結節点として世界最大級の海港へと変貌しました。中国領ではなくイギリス領であり続けることを選んだ華人社会に支えられ、イギリスは第二次大戦後も香港を手放すことなく、1997年まで統治し続けます。

China and the Modern World

1841-1951

Hong Kong, Britain, and China

イギリス植民地省香港植民地関係ファイルCO129を電子化、 手書文字認識(HTR)による手稿のフルテキスト検索を実装

本アーカイブは英国国立公文書館が所蔵するイギリス植民地省旧蔵の香港植民地関係ファイル(CO129: War and Colonial Department and Colonial Office: Hong Kong, Original Correspondence)を電子化したものです。香港総督以下の香港政庁と植民地省との往復文書や総督の急送文書に加え、外務省、内務省、陸軍省ら、その他の省庁の文書を通して、1841年から1951年までの110年間に亘る植民地香港の歴史を辿ります。オリジナル文書は1926年まで年代順にファイリングされてきましたが、1926年以降は主題別にファイリングされるようになりました。香港政庁やイギリス政府省庁関係文書が大半を占める収録文書は、イギリスによる植民地香港の統治の実態を克明に描きます。加えて、同時代

の香港や広州等の周辺地域を観察した報告からは重大事件や華人社会の慣習を浮かび上がらせませす。さらに、統治の一環としての人口や衛生や犯罪等に関する夥しい統計が収録されている点も見逃せません。本アーカイブでは、収録資料のうち手稿資料に関して手書文字認識(HTR)によるフルテキスト検索を実装し、資料の検索範囲を飛躍的に拡大しました。中華圏でありながら大英帝国の一部であるという特性を生かして、110年間に人とモノとカネが行き交う世界最大級の海港都市へと変貌した香港の歴史に関する64万ページに及ぶ資料を収録する本アーカイブは、香港史はもちろん、大英帝国史、中国近代史、東アジア近代史にも新しい光を当てる画期的なコレクションです。

▶ 他のパートも併せてご検討ください

The Chinese Recorderなど、近代中国の英文雑誌17誌を収録

China and the Modern World: Missionary, Sinology, and Literary Periodicals (1817-1949)

- ◆ The Chinese Recorder (教務雑誌, 1867-1941)
- ◆ The West China Missionary News (華西教會新聞, 1899-1943)
- ◆ The China Mission / Christian Year Book (中國基督教年鑑, 1910-1939)
- ◆ Educational Review: continuing the monthly bulletin of the Educational Association of China (教育季報, 1907-1938)
- ◆ Canton Miscellany (廣州雜誌, 1831)
- ◆ Chinese Miscellany (中國雜誌, 1845-1850)
- ◆ The Chinese and Japanese Repository (中日叢報, 1863-1865)
- ◆ Notes and Queries on China and Japan (中日釋疑, 1867-1869)
- ◆ The China Review: or Notes and Queries on the Far East (中國評論, 1872-1901)
- ◆ The New China Review (新中國評論, 1919-1922)
- ◆ Indo-Chinese Gleaner (印中搜聞, 1817-1822)
- ◆ Bulletin of the Catholic University of Peking (輔仁英文學志, 1926-1934)
- ◆ The Yenching Journal of Social Studies (燕京社會學界, 1938-1950)
- ◆ The China Quarterly (英文中國季刊, 1935-1941)
- ◆ T'ien Hsia Monthly (天下月刊, 1935-1941)
- ◆ The China Critic (中國評論週報, 1928-1946)
- ◆ The China Year Book (中華年鑑, 1912-1939)

南京の第二歴史檔案館所蔵の中国海関文書

China and the Modern World: Records of the Maritime Customs Service of China (1854-1949)

総稅務司通令／ロンドン事務所文書／条約港からの准公式書簡／貿易取締関係文書／日中戦争とその後の国共内戦期関係文書

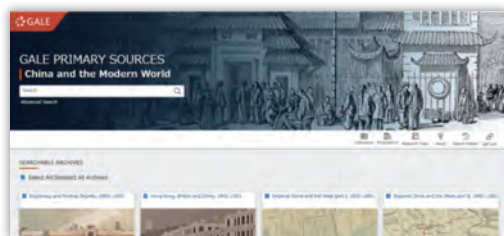
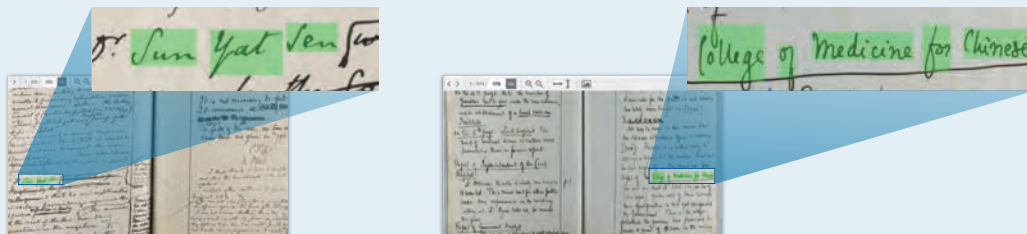
英インド省文書に見る新疆、チベット、雲南、ビルマにおける大国間のグレート・ゲーム

China and the Modern World: Diplomacy and Political Secrets (1869-1950)

大英図書館が所蔵するインド省文書から、政務・機密部門、ビルマ局文書、軍事部門文書の三シリーズの中の中国関係文書4,204点を精選して電子化

Handwritten Text Recognition(HTR) 手書文字認識を適用!!

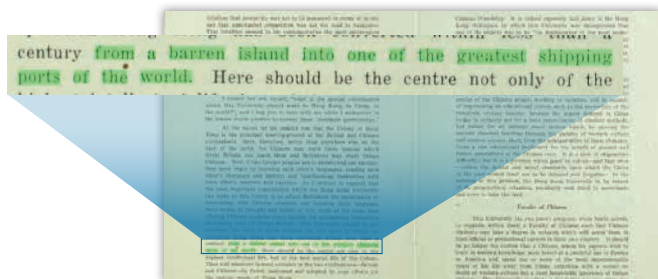
小社のアーカイブはこれまで、活字資料についてOCR(光学文字認識)によるフルテキスト検索を実装することで、一字一句のレベルまで資料を隈なく探すことを可能にし、デジタル時代の新しい研究をサポートしてきましたが、この度、新規アーカイブに関して、手稿資料についてHTR(手書文字認識)によるフルテキスト検索を実装しました。手稿資料がフルテキスト検索できるようになることは、手稿資料を頻繁に利用する歴史研究において画期的なことであり、書誌情報からは予測ができない意外な発見への道を開きます。小社では、今後リリースされるアーカイブ商品は、原則としてHTRを実装する予定にしております。また、クラウド上でテキストマイニングするプラットフォームGale Digital Scholar Labでも、OCRテキスト同様に、HTRテキストも分析できるようになる予定です。



トップページ



文書表示画面



一字一句までフルテキスト検索。検索語はハイライト表示。



別契約のGale Digital Scholar Labでは様々なテキストマイニングのツールをご利用になれます。この例はムイツァイ関係の文書を対象にしたNグラム頻度の解析結果をワードクラウドで表示したものです。

データベースの概要

- ◆ 収録資料：植民地省ファイルCO129(War and Colonial Department and Colonial Office: Hong Kong, Original Correspondence)
- ◆ 収録資料の種別：タイプ打ち文書、手稿(フルテキスト検索に対応)
- ◆ 収録資料の期間：1841年-1951年
- ◆ 言語：英語他
- ◆ 総ページ数：640,000ページ以上
- ◆ 原資料所蔵機関：英国国立公文書館
- ◆ 編集顧問：ジョン・キャロル(香港大学歴史学部)、
チ・クワン・マーク(ロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ校歴史学部国際史上級講師)
- ◆ 機能：ページ送り、画面拡大・縮小、全画面表示、輝度・コントラスト調整のビューワ機能の他、印刷、PDFファイルのダウンロード、OCRテキストのダウンロード、書誌自動生成、書誌情報のエクスポート、メール送信、Google/Microsoftログインとクラウド連携を実装



すべてのコンテンツと機能をお試しいただける1ヶ月の無料トライアルをご提供しております。商品に関するお問い合わせは、センゲージャーニング株式会社までお願いします。

Tel : 03-3511-4390 E-mail : GaleJapan@cengage.com URL : www.gale.com/jp